

特集

東京2020競技大会

～ゴルフ競技会場 川越市・狭山市～



川越市マスコットキャラクター ときも

川越市

オリンピックまであと1年 ～街全体での「おもてなし」に向けて～

川越市 総合政策部 オリンピック大会室 副主幹 大岩根 晃さん、主事 江守 宏彰さん

川越市では、東京2020大会のゴルフ競技会場が決定してから、大会開催に向け、PRイベント等を開催するなど、積極的に取り組んできました。平成29年度には、競技会場市として大会を市全体で盛り上げるため、市内の各団体の代表者が集まり、5つのテーマと21のアクションからなる「川越おもてなしプラン」を策定しました。そして、平成30年度には「おもてなし重点取組」として、「多言語の取組」「伝統や文化を発信するイベント開催」「バナーフラッグや花による市内の装飾」を掲げ、現在それぞれの取組を推進しています。

まず、「多言語の取組」として、市広報紙にオリンピック特集スペースを設け、川越に縁のある外国の方の国の文化、あいさつなどの簡単な会話やオリンピックへの意気込みなどを掲載しています。広報を通じて多くの市民の皆さんに、様々な文化や言語に慣れ親しんでもらいたいと考えています。また、川越商工会議所と連携し、商店街等の事業所へ外国人観光客向け接客マニュアルや多言語コミュニケーションシートなどの配布を行い、接遇、おもてなしの向上を図っています。

2つ目の「伝統や文化を発信するイベント」として、大会期間中のライブサイト(オリンピック競技のパブリックビューイングなど)と、川越市総合文化祭の同時開催を検討しています。これらは男子ゴルフ競技開催中の8月1日、2日を予定しており、ライブサイトでオリ



タイ王国空手代表選手団の事前キャンプ

ンピックの盛り上がりを感じながら、総合文化祭で川越や日本の伝統に触れ、両方を楽しんでもらいたいと考えています。

3つ目の「市内の装飾」では、東京2020大会エンブレムやマスコットを描いたバナーフラッグや夏の季節にふさわ

しい花で市内を飾ります。市民や観光客の目に触れる機会も増え、オリンピックに向けた機運がますます高まると思います。また、大会期間中は、競技会場までのルート上を彩り豊かに花で飾りたいと考えています。花壇へも東京2020大会をPRする看板などを設置し、川越駅前には花とバナーを活用したフォトスポットも設置する予定です。

おもてなし重点取組のほか、国際交流にも取り組んでいます。今年2月、川越市はタイ空手連盟と事前キャンプに関する協定を締結し、タイのホストタウンとなり、8月にはタイ空手代表選手団による事前キャンプが行われました。滞在期間中、空手を習う地元の子どもたちとの合同練習を開催するなどの交流を行いました。9月には学校給食の献立にタイ料理を取り入れ、子ども達にタイの文化を紹介します。タイをはじめ、様々な国との交流を広げ、理解を深めることも、おもてなしの取組に繋がっていくと思います。

前回1964年の東京オリンピックを経験された方に当時の様子を尋ねると、良い思い出をたくさん聞くことができます。その記憶は決して色褪せることのない特別な体験なのでしょう。大会開催まで1年を切り、いろいろなところでカウントダウンが始まっています。オリンピックという貴重な機会に、市民の皆さんや関係団体と協力、連携して、子ども達にも良い思い出を残せるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います。



商店街のバナーフラッグ装飾

オリンピックを契機に ～外国人観光客への取組と市民の国際理解を進めるために～

川越市 文化スポーツ部 国際文化交流課 課長 宮寄 有子さん、川越市 産業観光部 観光課 副主幹 小高 慎太郎さん

川越を訪れる外国人観光客は、平成29年は197,000人、平成30年は279,000人と増加傾向が続いています。そんな中、2020年のオリンピックのゴルフ競技会場に川越市にある「霞ヶ関カシツリー倶楽部」が決まり、大会期間中は国内外からさらに多くの観戦客が川越市を訪れることが見込まれます。

そこで、オリンピック大会の開催を契機として、3つの事業を進めています。1つ目は、英語の観光ボランティアの育成講座を平成29年度から行っています。大変人気があり、継続して開催しています。英語での説明や案内、模擬的な実地体験も行う講座で、今後、受講したボランティアに活躍の場を提供する仕組み作りを考えているところです。

2つ目は、観光案内所での有料ガイドツアーです。外国人向けに英語でガイドするツアーで、この秋から販売予定です。外国人観光客増加に伴い、今後も外国人向けサービスを強化していきたいと思っています。

3つ目は、大会期間中の川越のPRです。平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された「川越氷川祭の山車行事」。国の重要無形民俗文化財にも指定された、川越まつりの山車の競演です。大会期間中はこの山車を川越

駅周辺などに設置し、国内外の観戦客の目を楽しませ、川越まつりに興味を持ってもらいたいと思っています。また、市独自のボランティアを街中に配置し、観戦客を時の鐘や喜多院などの観光スポットに誘導できればと期待しています。

国際文化交流課では、市民の国際感覚を醸成できればと、国際理解講座を実施しています。今年度は、大会を世界に目を向けるきっかけと捉え、例年より講座回数を増やして実施し、「おもてなし」や「やさしい日本語」、外国の文化や語学を学びます。語学は難しいものではなく、簡単なあいさつや道案内ができることが目標です。川越市在住の外国人は中国、ベトナム、フィリピン、ネパール、韓国・朝鮮の順に多く、ベトナムの方はここ10年で急増しています。市内4つの大学(東洋大、東京国際大、東邦音楽大、尚美学園大)でも約1,700人の留学生が学んでいます。在住外国人、外国人旅行者の増加に伴い、さらに市民の国際理解・多文化共生の意識を培うことが求められています。

現在、埼玉県、川越市、鉄道会社(東武、西武)が合同で海外での観光プロモーション活動を行っています。今年度だけでも、香港、インドネシア、タイ、台湾でPRしており、今後は欧米へのプロモーションも検討しています。

狭山市

狭山市民としてのシビックプライドの醸成を目指して

狭山市 総合政策部 政策企画課 オリンピック準備室 主査 平塚 陽二さん

一番のおもてなしは、観戦客を安全確実に会場までお送りすることです。私達「開催会場」となっている自治体は、駅から会場まで、安心・安全に観客を運び、さらには通常生活を営む市民の生活を妨げないように調整する役割を担っており、現在、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と入念に準備を進めています。

ゴルフ競技会場までのシャトルバスの輸送拠点として、狭山市駅と稻荷山公園駅の市内の2つの駅が想定されており、狭山市駅周辺では、「ICTを活用したおもてなし」として、誰でも無料で利用できる無線LANを、本年1月から稼働させています。多言語に対応しており、外国人観戦客にもどんどん活用してもらいたいです。

また、狭山市の魅力を知ってもらうため「狭山流おもてなし」を展開します。具体的には、市内33団体で構成する「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会狭山市推進委員会」で検討を進めています。「Tea(狭山茶)」「Tee(ゴルフ)」「Triangle(三位一体)」の3つの「T」を柱とした『# T shot SAYAMA』をコンセプトとしています。まず、「Tea(狭山茶)」は、水分補給と狭山市の特産品のPRを兼ねて、観戦客への冷茶接待やお

茶の手もみ体験などを検討しています。二つ目の「Tee(ゴルフ)」は、近郊にゴルフ場が多いという特徴を生かし、ゴルフが好きな方はもちろん、馴染みのない方にも競技体験などを通して、ゴルフの魅力を伝えていきます。最後に「Triangle(三位一体)」では、市民、事業者、行政の3者で、狭山の魅力を掘り起こし、発信していきます。

そして、「狭山市入間川七夕まつり」のイメージで駅周辺に七夕飾りを行います。市の伝統文化を見て、感じて、ぜひ世界へ発信していただき、後のインバウンドの足がかりとなればと思います。なにより、狭山流おもてなしを企画検討することで、市民の皆さんに狭山市の良いところを再発見してもらうことを期待しています。



2年前イベントでのゴルフ競技体験